

# 有限会社 アグリ・カップ



## 1 現在の経営内容等

### (1) 経営理念、キャッチフレーズ等

調和を第一に、次代へ引き継げる元気な農業経営を目指す。

### (2) 栽培技術の特長

- 品質と作業性を重視した、側条二段施肥による省力化（追肥無し）。
- ほ場ブロック毎に品種を統一し、ロスを減らした作業体系。
- もち（みやこがねもち）の減農薬減化学肥料栽培。
- 高品質生産のため、粉クリーナーとライスグレーダー、色彩選別機を導入。

### (3) 販売の特長

- 減農薬減化学肥料栽培もち米の加工業者との数量契約販売。
- 系統出荷をメインに個別販売（28戸：構成員と農地提供者含む）。
- 水稻苗販売（@850）による現金収入。

### (4) 経営組織の特長

- 作業全般と生産技術等を各取締役が分担し、企画・財務管理等も含め代表取締役社長が総括。

### (5) 労務管理の特長

- ムリ・ムダ・ムラの無い働き方を常に意識。
- 繁忙期であっても週に一日の休日を確保。

- 季節に応じた就業時間の設定。

### (6) 経営管理の特長

- 作業機械類は点検整備を十分行い、簡易な修理修繕は自前で行い経費節減。
- 記帳を徹底し、経営状態を的確に把握し次年度戦略へ反映。

### (7) その他の特長

- 各種組織団体に加入し情報収集するとともに、研究会で資質向上を図っている。

## 2 これまでの経過

### (1) 法人化するまでの特徴的な歩み

昭和50年代後半から地域の14～15戸の農家でミニライスセンター導入を検討してきた。平成6年、4戸で「一の関集団栽培組合」を組織し、うち3人が認定農業者となった。

### (2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

平成7年、県農業会議や中新田農業改良普及所の支援を受けながら法人化を検討した。当時米価は安定しており、一の関集団栽培組合4戸プラス近隣4戸の農地（合計23ha）で、平成8年農業生産法人としてスタートした。徐々に実績を重ね、現在28戸（46ha）と収穫・乾燥調製（15ha）までに規模が拡大している。

## 経営のプロフィール

### 経営概要

- ・水稲（32ha・153t）
- ・大豆（10ha・17t）
- ・牧草（3ha・生産調整・作業委託）

### 主な施設・機械の保有

- ・ライスセンター（461㎡）
- ・トラクタ 5台（73・53・45・32・15ps）
- ・田植機 1台（8条植え 多目的田植機）
- ・自脱型コンバイン 2台（6条刈・4条刈）
- ・穀物乾燥機 53石 6基
- ・粉摺機 1台（6インチ）
- ・フレコン計量機（1t）
- ・色彩選別機 1台
- ・粉クリーナー 1台

### 構成員等

構成員5名、常時雇用1名

### 法人設立年月日

平成8年4月15日

### 認定農業者認定年月日

平成23年2月22日（再認定）

### 出資金又は資本金

300万円

### 販売額

約4,000万円（平成24年度）

### 役員名

代表取締役：堀籠 勝恵  
取締役：田中 憲昭

### 主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

経営基盤確立農業構造改善事業（H8）  
※ミニライスセンター 育苗施設一式 汎用コンバイン 田植機  
東日本大震災農業生産対策交付金（H23）  
※粉クリーナー 色彩選別機

## 3 今後に向けて

(1) 解決すべき課題と現在検討中（取組中）の対処方策  
元気な後継者を確保するため、福利厚生を充実させるなど受入態勢を整えていく。

### (2) 今後に向けての経営戦略

農政の大転換で先行き不透明だが、施設・機械設備を最大限に活かして、水稲+大豆を柱とした経営をしっかりとっていく。

（調査：大崎農業改良普及センター）

## 略図



有限会社アグリ・カップ  
加美郡色麻町一の関字曲松1-2  
TEL 0229-65-5869 (FAX兼用)

### 視察受入条件

農繁期は不可  
視察申込は直接当社へ